



杉並区立四宮小学校

令和5年5月31日

## 「話」を通して「和」を育み「結」へ

校長 浮ヶ谷 優美

昨年12月号の学校だよりに、令和5年の抱負を漢字一字で「結」としてお伝えしました。校内の教職員の結束はもちろん、家庭や地域の皆様と共に手を携えて教育活動の一層の充実を図っていくことを目標とした「結」です。本号では、「結」と似た意味を示す「連携」について、本校で現在行われている幼保連携や小中学校の連携についてご紹介します。

【幼保連携】交流が制限されたコロナ下では、夏休み中の児童がいない時期に、複数の近隣保育園の年長児を対象とした学校見学を実施しました。保育園の施設より広い1年生の教室や体育館を見学し、園児が「大きい!」と歓声を上げていたのが印象的でした。昨年度3学期には、「年長児と1年生との交流会」が、3年ぶりに再開しました。子どもの交流だけでなく、1年生担任が夏休みに保育所の保育参観をしたり、園の先生方に1年生の授業参観をしていただいたり、教職員相互の交流も年2～3回実施しています。また、入学予定の年長児の情報をうかがい、1年生の学級編成の資料としています。

【小中連携】杉並区では中学校区ごとに小中連携校が定められており、井荻中学校、桃井第一小学校、四宮小学校の三校が連携校になっています。毎年、6年生が井荻中学校に訪問し、学校見学や生徒会役員から学校生活についての説明を聞く取組が行われています。地域活動においても、井荻中学校地域教育連携協議会「子ども地域活動促進事

業」の一環として、4～6年生は部活見学・体験、1～3年生は中学生有志による昔遊び等（コロナ禍一部休止）が、小学校から中学校への滑らかな接続や交流をねらいとして実施されてきました。

教職員の取組では、三校合同「インクルーシブ研究プロジェクト」が今年度で三年目を迎えました。「できないことをほったらかしにしない」を合言葉に、三校相互の授業参観や実践取組交流会等をこれまで積み重ねてきました。そうした取組を通して教員は、児童・生徒の見方が「困った子」から「困っている子（助けを求めている子）」と捉え方が変わったり、支援方法のバリエーションが増えたり、配慮を要する児童・生徒へのかかわりに変化が見られるようになるなど、意識改革が進みました。また、井荻中学校区では独自に三校合同の引き渡し訓練も実施しています。例年9月に実施していた訓練を5月に前倒して行うことを通して、危機管理体制の強化が図れたことは、三校連携の進展の成果でもあります。

紙面の都合で紹介できませんでしたが、学校運営協議会、学校支援本部、PTA、おやじの会、四宮森児童館、学童クラブ、荻窪子ども家庭支援センター、杉並児童相談所、上井草保健センター等々、様々な機関と「話」を通して「和」を育んで「結」を推進し、「みんなのしあわせを創る杉並の教育」の実現をめざして今日も明日も引き続き努力していきます。

### 6月の生活目標

#### 廊下を静かに歩こう

- ・走らず静かに歩こう
- ・右側を歩こう
- ・階段では安全に行動しよう。

校内に、右記のようなポスターが掲示されています。

- ① ずかに  
ろうか②
- ③ ぎがわを
- ④ さしいきもちで  
あるきましょう

学校では、多くの人が生活し、廊下を行き来します。廊下に飛び出したり、遊んだりすることはけがや事故につながります。一人一人が左のポスターにあるように廊下歩行のきまりを意識することで、けがや事故を防ぎ安全に学校生活を送ることができます。

6月は梅雨の時季に入ります。雨のために、室内遊びの機会が増えるとともに、廊下も滑りやすくなります。些細なことが大きなけがにつながることも考えられます。集団での歩行も含め、安全な生活が送れるように指導していきます。

(生活指導部)